

火・水に関するもの

勢至堂の滝

《勢至堂》

江花川(阿武隈川の支流)の源を発する溪流は、俗化されない溪谷である。鬼面山の巨岩、苔むした岩肌に降った雨と、密林や幾多の植物群に降った雨が清水となつて沢を流れ、各所に滝や淵を作り出している。

白馬の尾をたれたような馬尾の滝は、高さ一二メートル余もあり、滝の中でもみごとで、昔、参勤交代で通行した会津の殿様も、駕籠を休めて観賞されたものといわれている。

銚子ヶ滝は銚子の口より落下する一条の水流を見て、その名が付いた。明治二十九年の山津波で、銚子の口が壊れてなくなつたが、その名にふさわしく、一六メートルの高さから落下している。

姫子の滝は、昔、弘法大師がこの地に来て、岩間を錫杖で突いたところ、噴出したといわれている。またこの滝の上に平な原があつて、ここにお姫様が住んでいたので、その名が付けられたといわれる。

山姫の如何に居らん勢至堂

岩瀬にさらす滝の白糸

という歌がある。